

令和6年度研究推進計画

廿日市市立阿品台東小学校

学校教育目標

夢や目標に向かい 共に伸びる

1 研究主題

「自ら学びたくなる教育活動の創造」（3校共通研究主題）

～選択と自己決定を取り入れた授業を通して～

2 研究主題設定の理由

昨年度、研究主題を「自ら学びたくなる教育活動の創造～アセスメントを充実させることを通して全員参加の授業をめざして～」とし、授業に参加しにくい児童の情報共有（アセスメント）を全職員で行い、全員が参加できる授業づくりのための研究を行った。抽出児童への手立てを考えることにより、他の児童にとってもわかりやすく学ぶ意欲が高まる授業へと改善することができた。また、「共感的な人間関係を育成し」、「自己存在感を実感させ」、「自己決定させる場を設定する」生徒指導の三機能を授業の中に位置付けていくことにより、多くの児童が安心感をもって授業に参加することができた。

今年度の研究の方向性を考えるにあたって、まず児童の実態を分析した。児童の強み（伸ばしたい）として、やる事が明確にわかっているときには、集中して取り組むことができること、ICT機器の活用スキルが高く、日常的に活用できることが挙げられる。しかし、弱み（力をつけたい）として、意欲面や学習面に個人差が大きいことや、学習に対して受け身になりがちなこと、粘り強く取り組むことが苦手なことが挙げられる。このことから、「主体的に学び合う児童」を育成するには、これらの児童の強みを伸ばし、弱みを補完していけるような「安心感のある」授業と「選択と自己決定のある」授業を積み重ねていくことが必要であると考えた。

そこで、今年度は全ての児童の「安心感」と「選択と自己決定」を保障する授業づくりを目指し、サブテーマを「～選択と自己決定を取り入れた授業を通して～」として研究を進めることとした。このような授業を目指すために、日々の授業の中で選択と自己決定を取り入れた「個別最適な学び」と、他者との安心感を醸成する「協働的な学び」を充実させていくことを研究の中心として取り組んでいく。

さらに、子供たち一人一人の振り返りを充実させ「自分はこのやり方でやろう。」「今日は～ができた。」「友だちと一緒に最後まで取り組めた。」という学ぶ楽しさ（主体的・充実感・達成感）を実感できる授業づくりを目指していく。そのために、集団全体だけでなく個々の児童のアセスメントをしっかりと行い、そのアセスメントを基にした児童理解を通して、児童が自ら学びに向かえるように学習環境を整備し、個々の児童の居場所感を大切にしていく。

また、そのためには、よりよい学級集団づくりを行っていくことが必要不可欠であり、学校全体で、授業以外の活動での「学級づくり」と、教科指導を中心とした「授業改善」の2本の柱を常に意識し、生徒指導部と役割を分担し、協働しながら研究を進めていきたい。

このように、選択と自己決定のある授業づくりと振り返りの充実により、将来にわたって学びを自己調整できる力を身に付けさせていく。

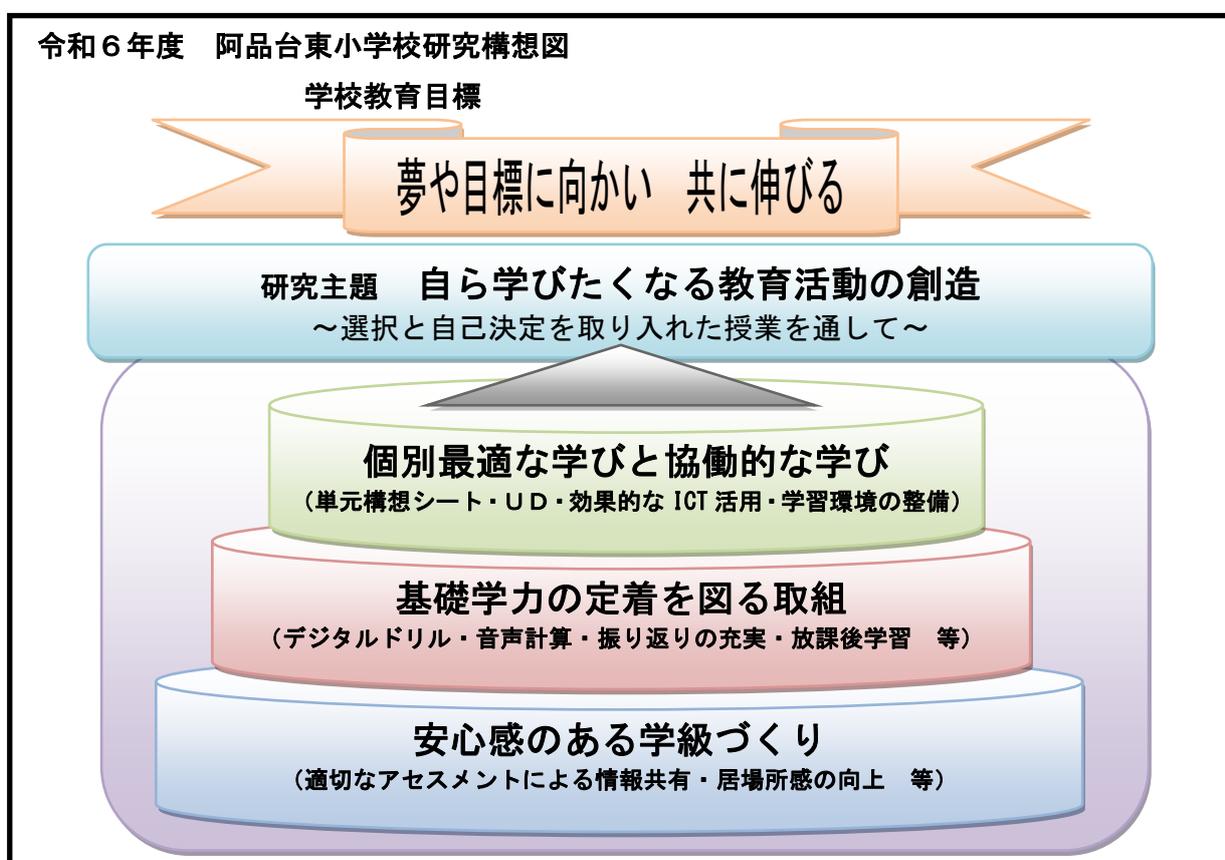
これらの取組を通して、「自ら学ぶ」児童の育成と「学力の向上」につなげることを主眼において研究を進めていきたい。

そこで今年度は、特に以下のような取組が必要であると考えます。

- 抽出児童の適切なアセスメントの実施
- 個別最適な学びと協働的な学びの充実
 - ・選択と自己決定のある授業の工夫
 - ・自ら学びに向かえる学習環境の整備（ICTの効果的な活用等）
 - ・自己調整につながる振り返りの充実
- 基礎学力の定着（デジタルドリル、音声計算等、放課後学習の充実）

以上のことから、今年度は、研究主題を「自ら学びたくなる教育活動の創造 ～選択と自己決定を取り入れた授業を通して～」とし、授業に参加しにくい児童の情報共有（アセスメント）を基に、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、全員が安心して参加できる授業づくりのための取組を行う。

3 研究構想図



4 研究仮説

個々の児童のアセスメントを基に、選択と自己決定のある授業づくりを行い、個別最適な学びと協働的な学びを充実させることで、主体的に学ぶことができる授業を行うことができるであろう。

5 研究の視点

- (1) 児童のアセスメントにより考えられた手立てが、授業に参加しにくい児童にとって効果的であったかを検証、改善し、実践を積み上げる。
- (2) 選択と自己決定のある授業実践をすることで、児童の学習への主体性の向上を目指す。
- (3) デジタルドリルや音声計算等の繰り返し学習や授業の振り返り、放課後学習の充実により、基礎学力の定着を図る。

6 研究の内容

1	児童のアセスメントの充実と、選択と自己決定のある授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員による抽出児童のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ・興味のあることや苦手なことなどから有効な手立てを考え、アセスメントシートに記入する。 ○単元構想シートの活用による「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善 ○個別最適な学びと協働的な学びの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、つまずきの要因分析から全員が授業に参加できるような具体的手立てを考える。 ・単元の学習計画を提示し、学習への見通しや安心感をもたせる。 ・選択と自己決定の場の設定し、学習意欲を高める。 ・学習環境を整備（ICTの効果的な活用等）し、自分の力で学習に向かえるようにする。
2	基礎学力を定着させるための取組	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリル、音声計算等 ○振り返りの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・学びを自己調整できるようにする。 ○放課後学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・低学年を対象に放課後学習を行い、学習内容の確実な習得を図る。 ○家庭学習を授業内容と連動させ、保護者への啓発を行う。 ○学力調査の結果等を通して、課題意識を共有する。
3	その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○学習規律の徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック「学問のすすめ」を使って、学習準備、机上整理、授業始めのあいさつ等、全学年で実態に合った指導を行う。 ○阿品台東小授業モデルによる取組の振り返り

8 研究授業のあり方

- ・個別最適な学びと協働的な学びを充実させた授業研究を行い、授業改善を図る。
- ・学習環境の整備や、選択と自己決定の場面設定について、適切であったか検証する。
- ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、支援対象児童のつまずきの要因を把握、分析し、支援方法を中心に検討する。（個々のアセスメントの充実）
- ・事前に各学年・ブロック・全体などで抽出児童の情報共有（アセスメント）を行い、より全ての児童が参加できる、したくなる授業にする。
- ・各学年で事前授業が可能な場合は、同じ指導案で授業を行い、改善を図る。
- ・研究授業で得た実践事例を全校で日々の授業に生かす。
- ・課題を次の研究授業に引継ぎ、改善を図る。

<授業分析の視点>

- ☆アセスメントを基にした、全員が授業に参加できる手立てがされていたか。
- ☆児童が主体的に学び合うことができる、選択と自己決定の場が設定されていたか。
- ☆自ら学びに向かえる学習環境の整備（ICTの効果的な活用等）が行われていたか。
- ☆自己調整につながる振り返りができていたか。

9 検証計画

	視点	方法	指標
1	学力が向上したか	・標準学力調査及び、学期末評価テストにより検証する。	・標準学力調査（国語・算数）の結果，ステップ（到達度）1・2の割合が25%以下になる。 ・8/11の学級で学期末評価テストの「知識・技能」の結果が，業者指定の期待平均を上回る。
2	選択と自己決定の場が設定された授業実践ができたか	・教職員アンケートにより検証する。 「選択と自己決定の場が設定された授業実践をしている。」	・教職員アンケートの肯定的評価の平均値が80%以上になる。
3	児童は主体的に課題を解決しようとしていたか	・児童アンケートにより検証する。 「課題の解決に向けて，自分で考え自分から取り組んでいる。」	・児童アンケートの肯定的評価の平均値が80%以上になる。

10 育成を目指す資質・能力

資質・能力	目指す児童の姿		
	低学年	中学年	高学年
課題解決力	○進んで課題に取り組む。 ○課題解決に向けて，友だちと協力する。	○進んで課題に取り組む，解決のための手順を考える。 ○課題解決に向けて，異なる意見や他者の考えを受け入れながら，協力して活動する。	○進んで課題に取り組む，解決のための手順を考え，行動する。 ○課題解決に向けて，自分らしさを発揮したり他者の考えを尊重したりしながら，協働する。
向上心	○目標に向かってがんばる。 ○何事にもチャレンジする。	○目標を決め，それに向けて努力ができる。 ○失敗を恐れず，よりよくするために何事にもチャレンジする。	○よりよい自分を目指して目標をもち，努力し続ける。 ○自分の将来について考え，夢をもつ。 ○自分を振り返り，よりよい段階に向け，チャレンジする。
自己有用感	○友だち・自分のよいところに気付く。 ○他の人のために仕事ができる。 ○「ありがとう」が言える。	○友だちや自分のよさがわかり，それを表現する。 ○友だちや学級の役に立つことを進んで行う。 ○感謝の気持ちを素直に伝える。	○お互いのよさや個性を認め合った行動をとる。 ○クラスや学校での自分の役割を自覚し，積極的に活動する。 ○当たり前のことにも感謝の気持ちを持ち，それを表現する。

1 1 研修計画

○年間予定

月	日	曜日	研修内容
4	3	水	○学習ガイドブック「学問のすすめ」について ・「学習のきまり」（ノート使い方・発表の仕方 等） ・学習規律の意識統一
	4	木	○研究推進について ・今年度の研究について（大枠） ・前年度のアセスメントシート，標準学力調査結果の引継ぎ ○ICT活用について ・ロイロノート・ドリルプラネット・無料アプリ（ドリル）
	15	月	「学習のきまり」週間 15日（月）～19日（金）
	23	火	研究推進計画について
5	上旬		児童アンケート・教職員アンケート
	9	木	指導案検討①及びアセスメントタイム（6年） 抽出児童決定・アセスメントシート記入
	27	月	第1回校内授業研究（6年）
6	10	月	「学習のきまり週間」 10日（月）～14日（金）
	6	木	指導案検討②及びアセスメントタイム（3年）
	27	木	第2回校内授業研修（3年）
7	上旬		児童アンケート・教職員アンケート（1学期）
	23	火	1学期のまとめ
8	21	水	指導案検討③④及びアセスメントタイム（4年）（5年）
	23	金	スキルアップ研修 （ICT・単元構想シート・カリキュラムマネジメント 等） 全国学力・学習状況調査の結果分析
9	9	月	「学習のきまり」週間 9日（月）～13日（金）
	19	木	第3回校内授業研修（5年）
10	1	火	第4回校内授業研修（4年）
	29	火	「学習のきまり」週間 29日（火）～11月1日（金）
	31	木	指導案検討⑤及びアセスメントタイム（2年）

1 1	2 1	木	第5回校内授業研修（2年）
1 2	上旬		児童アンケート・教職員アンケート（2学期）
	2 5	水	2学期のまとめ 「学習のきまり」（学問のすすめ）の見直し
1	9	木	指導案検討⑥及びアセスメントタイム（1年）
	1 4	火	「学習のきまり」週間 14日（火）～17日（金）
	3 0	木	第6回校内授業研修（1年）
2	上旬		児童アンケート・教職員アンケート
	2 0	木	標準学力調査の分析 抽出児童についての交流
	2 7	木	今年度取組の振り返りと研究のまとめ ・次年度に向けて